

再犯防止へ回復支援

(5)

薬物やアルコール、インターネットへの依存、窃盗症、摂食障害、家庭内の暴力……。「アディクション」と呼ばれる嗜癖(しへき)、嗜虐(しきやく)行為に陥っている人の犯罪は、刑罰だけでは再発を防止できない。背景には社会からの孤立がある。様々な分野に広がる問題行動に対処しようとする新しい受け皿づくりを口にさす動きが出てきた。

今春、各分野で活動する専門家や支援者、当事者が集まつた講習会が東京都内で開かれた。「目的は『アディクション円卓会議』の創設のための人材養成だ。薬物依存症回復施設のダ

ルクに残ってきた石塚伸一・龍谷大学教授は、再犯防

科学技術振興機構の委託事

石塚教授によると、アデ

「歯止めがきかない」とい

う人を一人で支えることは困難なうえ、衝動をコント

ロールできるよう様々な

業で、講習会はその一環。

「多様化するアディクションからの回復を支援するネットワークの構築」(AT-net)に取り組む。

「歯止めがきかない」とい

う人が対話する円卓会議モ

デル万式での実現を目指す。

いが、懲役刑で再犯が防止

されない理由がここにあ

り、医療だけで完治する性

質でないことも共通する。

一方、パチンコ・パチス

ロ依存問題の電話相談事業

を手掛けるNPO法人「リ

カバリーサポート・ネット

ワーク」(沖縄県)の代表

で精神科の西村直之医師は

「ギャンブル障害は自ら相

談していくなど自分なりに

体験を積み重ねる必要があ

る。多くの関係者が協力し

合える仕組みが不可欠だ。

研究事業に参画する性犯

罪問題の支援組織、一般社

団法人「もふもふネット」

AT-netとの連携の基

本

としたい」と話す。

回復支援に重点を置き始

めた再犯防止や社会復帰ブ

ラウンドを実施。加害者の

保護者、被害者の自助グル

ープ、専門家向け研修など

も重層的に行われている。

教授は話している。

各機関の縦割りの弊害を超

えて、各分野で活動する専門家や支援者、当事者たちが対話し、新たな社会的問題を共同で解決する性質でないことも共通する。

専門家や支援者、当事者の円卓会議創設のための講習会(東京都千代田区)



専門家や支援者、当事者の円卓会議創設のための講習会(東京都千代田区)

広角銳角

イクションの根底にあるのは自身の生き方と人との関わりを巡る課題という。人は不快な衝動を感じたときは不快な衝動を感じたとき、横断的に連携、協力で新しい受け皿づくりをする問題行動に対処しようとする新しい受け皿づくりを

トロールする。が、虐待などの人を信頼できず、助けを求めるといった行動を体得できないと、アディクションによるつかの間の解決を求める。それが重なることで脳にも快楽的な効果があり習慣化していく。

すべてが違法行為ではなく、内で開かれた。「目的は『アディクション円卓会議』の創設のための人材養成だ。薬物依存症回復施設のダ

内

で開かれた。

「目的は『ア

ディクション円卓会議』の創設のための人材養成だ。

薬物依存症回復施設のダ

内